横田基地の記念碑
Yokota Monuments

September 2, 2016

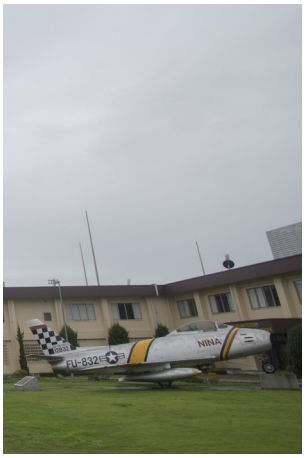
Original text by Senior Airman David C. Danford
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地飛行場内の庭園にたたずむ甲府岩。

この甲府岩は、横田基地の前身、旧日本陸軍の多摩飛行場だった1944年の4月10日に昭和天皇がこの地に訪問された記念に献納されたもの。山梨県に多く見られる溶岩岩魂で、侍の時代は結束のシンボルとされていたと言われている。

（写真2）第374施設中隊・横田消防署本部前に置かれている「ラスト・アラーム」の碑。

1951年11月に発生したB-29墜落事故で、機体に搭載していた爆弾が爆発し命を奪われた日米の消防隊員を弔うために建碑された。消防署では「ラスト・アラーム」（＝ラスト・コール）が、殉職した消防士仲間の名誉を称える追悼の言葉とされている。過去にベルの音は、一日の始まりと終わり、また緊急出動に使われた。追悼式典で鳴らされるベルは、旅立った隊員が任務を終え、安らかに眠る哀悼の意が込められている。

在日米軍、第5空軍、航空自衛隊航空総隊の司令部の3つの建物に囲まれて置かれている、三菱重工業のF-1（左）とF-86(右）。

F-86セイバーは、朝鮮戦争中に第5空軍が使用した主力戦闘機で、展示の飛行機は航空自衛隊によって寄贈された。F-1は、日本国内で初めて開発された超音速戦闘機で知られる。